

若葉民児協だより 2025.10

民生委員児童委員から地域の皆さんへお知らせです
若葉民生委員児童委員協議会発行（第60号）

発行者

若葉民生委員
児童委員協議会
広報部会

この夏は猛烈な暑さが続き「異常」と体感できる毎日の連続でした。残暑も長引き、10月も平年より高い気温になると予測されています。体力が低下している時期でもありますので、昼夜の気温の変化で風邪などひかれませんよう、引き続き気をつけてお過ごしください。



～彦根市民児協連 交流研修会～

8月28日（木）彦根市民生委員児童委員協議会連合会主催の交流研修会が、滋賀県立大学地域交流センターにて開催されました。「世代をつなぐコミュニケーション」と題したテーマ内容で、8つの単位民児協が順次実践報告を行いました。

若葉民児協もその一つで、2年間にわたり県の指定民児協として活動した【命のボタン】について「いざという時に備え命を守る取り組み」と題して、仲村会長が発表を行いました。

アドバイザーの鵜飼修・滋賀県立大学教授からコメントを頂き、続いて後半には、127名の参加者全員が指定された20のグループに分かれ、彦根市民の5%を占めるといふ大学生との「交流・コミュニケーション」についてグループワークを行いました。

最後にグループ毎に発表された中には、様々な企画・アイデアが溢れ、民生委員児童委員の活動を知ってもらい、更には地域で力を合わせて協働していく方向を確認でき、有意義な交流会となりました。



～自治会館開放事業 ふれあいの居場所ふれんど～

若葉学区住民福祉活動計画推進会議は有志のメンバーが集まり、誰もが安心して暮らせる町となるよう、地域の絆が深まることを目指して活動しています。

この夏休みに「ちょっと涼みに来ませんか？」と題して、民生委員児童委員も協力し、自治会館開放事業を計5回開催しました。

子どもたちから高齢者の方まで集まり、カロムや麻雀・カラオケ・茶話会等それぞれに時間を過ごしました。コロナ禍以降なかなか集う機会が無く、久しぶりのひと時に、皆さん笑顔でとても楽しそうでした。

「よかったわ～。またやってね！」という、嬉しいお声もいただきました。



～若葉学区包括単位地域ケア会議～

9月6日、地域の方や市の担当者、若葉にお住いのケアマネージャーさん、民生委員が参加し、「災害時を想定して、これからの若葉学区の取り組みを考える」～災害時の自助・互助・公助の力～をテーマに、若葉学区の地域ケア会議が開かれました。

会議では、この10年で高齢化が急激に進んだ当学区の現状が共有されました。「隣に誰が住んでいるか分からない」「コロナ禍以降、顔を合わせる機会が減ってしまった」「自治会の担い手がいらない」といった声も聞かれ、災害時に地域で助け合う「互助」の仕組みに大きな課題があることが浮き彫りになりました。

いざという時に命を守るためには、行政の支援（公助）だけでなく、日頃からの顔の見える関係づくりが何よりも大切です。まずは私たち一人ひとりができることとして、ご近所での挨拶や声かけを積極的に行い、小さなつながりを育んでいくことが重要であることを改めて確認しました。

災害は待ってくれません。地域の防災活動にも関心を持っていただき、皆で安心して暮らせるまちづくりを進めていきましょう。



～インフルエンザ早期流行の兆し～

インフルエンザは、例年11月頃から徐々に患者が増え始め、1月頃に流行がピークに達し、4月過ぎに収束する傾向があります。しかし、今年は9月から流行期に入り、学級閉鎖となる学校が全国で増えてきています。

猛暑による夏バテで抵抗力が落ちており、更にエアコンが効いた部屋で長時間過ごすため換気も不足します。ウィルスは25℃以下で感染力を長時間維持するので、感染しやすい環境が整ってしまったといわれています。早めの予防対策を行いましょう！

手洗い・うがい・換気・マスク着用

〈あなたの地域の民生委員児童委員・主任児童委員です〉

ローズタウン・第一区担当
民生委員児童委員
会長
仲村 千恵子

Ⅱ期・第三区担当
民生委員児童委員
永江 雄二

第四・サントウン
四区すずらん担当
民生委員児童委員
中西 裕子

マイタウン・オーケイ・オーハイ
サファティー・スマイル担当
民生委員児童委員
副会長
板津 伊津美

レインボータウン担当
民生委員児童委員
中川 紀代美

ドリームタウン担当
民生委員児童委員
寺村 弘容

ピックタウン担当
民生委員児童委員
副会長
平尾 一師

全域担当
主任児童委員
木ノ内 江以子